

## 保育計画成果報告書

法人名等	社会福祉法人藤本愛育会
施設名	キッドワールドセカンドこども園（キッドワールドセカンド保育園）
報告者（役職）	高木 良司（園長）
住所・連絡先	大分県大分市大字片島字長三郎3005番地の3
	☎ 097-569-8600
	E-mail kwsecond@dune.ocn.ne.jp

○タイトル（保育計画）

朝からスッキリ運動あそび

○主な助成備品

エアークライミング（トランポリン）、ウェイブバランス平均台、低鉄棒等

### 1. 保育計画策定の目的

キッドワールドセカンドこども園は、インクルーシブな社会を目指し、インクルーシブ保育・教育を研究、実践していく準備を進めています。当園は、同じ法人の運営である大分こども発達支援センター（以下、「センター」）と隣接しており、センターでは、知的障害児通園施設「つばさ学園」と療育施設「大分こども療育センター」を運営しています。特別な支援を必要とする子どもが増えている昨今、当園では、自閉スペクトラム症の園児が2人、ダウン症児が1人、他、療育に通うまたはこれから相談する園児が10人おり（令和3年2月1日現在）、在籍の18%弱が特別な配慮を必要とする園児です。そして、センターと連携を図りながら療育的な指導を仰ぎ、こども園運営をしています。

このようなお子さんを受け入れる中で、特に必要となってくるのが登園時の受け入れでの心の安定です。その心の安定を得るために、大型遊具での粗大運動により三半規管や平衡感覚を刺激する感覚遊びがいつでもできる環境を作りたいと思っていました。この遊びによって感覚統合を図ることにより、早い段階での心の安定を促していきます。

### 2. 具体的な実施内容

多目的ホールにエアークライミングを朝から設置し、いつでも誰でも誰とでも、たくさん跳んで遊べるようにしました。また、移動式低鉄棒のセットも設置し、複数人で遊べるようにしました。ときに



は、ウェイブバランス平均台も同時設置し、複数の運動遊具をサーキット的に楽しめる環境も作っていきました。

特に戸外遊びができにくい梅雨時期は、日中、一つの学年だけでなく、複数の学年で同時に遊ぶ機会を設けました。

この流れを基に、うんどうかいごっこでもこれらの大型遊具を取り入れた運動遊びを披露しました。

また、自閉スペクトラム症のA児は、集団保育の教室で制作遊びをどうしてもしたくなかったときには、大型遊具のある多目的ホールへ担当の保育教諭と一緒にきたがるので、そこでいつでも遊べるようにし、心の安定を図れるような環境にしています。



最後に、ウェイブバランス平均台は特に応用が利き、絵本「3びきのやぎのがらがらどん」の劇遊びでは、がらがらどんが渡る橋としても利用しました。

### 3. その成果と評価

朝から運動遊びをすることによって三半規管や平衡感覚を刺激し、感覚統合を楽しみながら図っていくことによって心の安定が促進されることを期待していましたが、障がい児だけでなく、他の園児にとっても心の安定につながり、登園時に不安定な状態の園児がとてま少なくなりました。エアークライミングは、トランポリン機能だけでなく、クライミングやすべり台、マットとしての機能を併せ持つので、0、1歳児にとっても楽しむことができ、握力や腕力、脚力の機能の向上を図っていくことができ、発達を促すことができます。





ウェイブバランス平均台は、予想していたとおり、4、5歳児が自分たちで話し合っってコースを考えて組み立て、創造力、想像力、協調性、が育まれ、遊びのルールを自分たちでつくり、守り、変えていく姿が見られました。

期待していた予想される姿は、ほぼ満たすことができている、満足することができています。

#### 4. 今後の課題と展望

大型運動遊具では、粗大運動であるので、今後は、微細運動にも力を入れていきたいところです。大きなイメージから、小さなイメージへの転換を円滑に図っていくために、ボールなどの用具を取り入れた運動遊びを計画し、バランスの良い発達を保障していく必要があると考えています。計画的に実行することにより、ボディイメージを高められるよう教育・保育実践していきたいと思ひます。

以上